

平成28年度 第5回 東松島市復興まちづくり計画市民委員会 【開催概要】

平成29年1月24日（火）19時より、東松島市役所202会議室において、市民委員13名およびアドバイザー企業6社が出席し、平成28年度第5回東松島市復興まちづくり計画市民委員会が開催されました。

【内容】

1. 意見交換
～復興まちづくり計画について～
2. 平成28年度の総括
3. 市民フォーラムについて



■意見交換 ～復興まちづくり計画について～

第4回委員会に引き続き、「東松島市復興まちづくり計画」に基づく取組の進捗状況や課題、今後の進め方等について、市の担当職員を交え、委員がポスターセッション形式で意見交換を行いました。今回の委員会では、「安心・支え合い」「伝承・交流」「環境未来都市」の各テーマについて、これまでに実施した事業の進捗度・市民の理解度・効果や、これから実施する事業への意見・アイデア等について、市民からの目線で意見を出し合いました。

◇東松島市復興まちづくり計画について（一部意見を要略）

- ・防災集団移転等が進み、環境変化や新コミュニティへの順応等へのストレスや、仮設住宅での孤立が懸念される。被災者の心身のケア、被災した子どもの健康、不登校への対応等、引き続き細やかな支援に努めてほしい。
- ・「東松島市地域まちづくり交付金制度」は、市民の様々な活動を後押しする良い制度であるが、当交付金を知らない市民もいるようなので、周知を図る必要がある。
- ・時間とともに風化しつつある被災体験を伝え、次の災害に備えることは大切である。「旧野蒜駅プラットホーム（震災遺構）」や「震災復興伝承館」は、案内表示の充実化を図るとともに、近隣自治体の震災遺構も併せて見て回れるよう各自治体と連携するなどの工夫が求められる。
- ・「スマート防災エコタウン」は、全国に先駆けた素晴らしい取組である。再生可能エネルギーによる自立したまちづくりを目指し、エネルギーの自給自足に向けた取組を進めてほしい。
- ・同じ市内でも被災の度合いにより復興への関心に温度差があるように感じる。これからの復興事業について市民全体で真剣に考えていきたい。

※詳細は、別紙会議記録をご確認ください。

